

要援護者の移送・受入訓練を実施しました。

訓練の感想を伺いました！
(町内会編)

◆移送・受入訓練◆

各町内会から要援護者役1人を支援者3人で移送。施設で要援護者の受入訓練を実施後に、課題や問題点を確認しました。

実施：平成25年11月5日
会場：特別養護老人ホーム大友恵愛園
(北17条東5丁目)



①要援護者を移送



②大友恵愛園に到着



③要援護者の受け付け



④身体状況の確認



⑤訓練の振り返り

- ・施設で受け入れスタッフの誘導がスムーズだった。
- ・車いすに乗れない要援護者の移送方法の検討が必要。
- ・定期的に訓練を行い、車いすの使い方などに慣れていくべき。

訓練後、参加者から活発な意見が、たくさん出ていました。



北光地区
社会福祉協議会
木村 秀雄 副会長

「北光地区では、平成9年から自主防災活動に取り組んでおり、その中で懸案だった要援護者の避難について、行政・施設の協力を得られることで、具体的な避難行動ができました。今回の訓練結果を、今後の活動に反映させていきたいです」



北光地区
自主防災連絡会
のざわ まさあき
能澤 正明 会長

「今回、施設への要援護者の移送ルートを策定し、事前に下見で歩きました。その後、実際に要援護者役の方を車いすで移送してみると、道路の起伏や幅の狭さなど、予測できなかった問題点が判明するなど、多くの収穫がありました」



北光地区
福祉のまち推進センター
かけはた まちこ
掛端 真知子 事務局長

「要援護者を施設へ移送した後に行った身体状況の確認作業などは、災害時にはとても重要です。普段から要援護者の方の状況について地域で確認しておくことが、いざという時のために、大切なことだと思います」

訓練の感想を伺いました！
(施設編)



特別養護老人ホーム
大友恵愛園
さとう ひろみつ
佐藤 裕光 理事施設長

「今回の訓練では本施設の大ホールを受付場所として活用することができて良かったです。実際の災害では、施設スタッフと町内会、行政との緊密な連携がより必要になりますので、受け入れ後の要援護者へのケアも含め、地域への協力について引き続き検討していきます」



これからも

大規模な災害が発生したときには、自分の身を守る行動（自助）、地域・近隣の住人と助け合う行動（共助）、行政による支援活動（公助）を連携させることが大切です。今後、要援護者への支援ネットワークの取り組みを区内の他地区へ拡大できるように、シンポジウムの開催などを行う予定です。

【詳細】保健福祉課地域福祉係 ☎741-2459

